

## 今回のデジ田甲子園について

若宮委員

### 【はじめに】

私の場合、講演会等のご依頼が多く、北海道から沖縄までの市町村にお邪魔して、現地の方から直にお話を伺う機会が多い（年間訪問先100回弱）。その中で「地域活性化」の問題点として取り上げられる諸問題の解決策を「デジ田」から得られるべくご検討いただきたいと思います。

その中で、すべての事項に共通するのは「高齢者問題」です。

地域のマジョリティーである高齢者を「いかに戦力化するか」です。

少子化対策が最重要課題であることは間違いないですが、これから生れてくる子供が成人して社会活動・生産活動に携われるようになるまでには20年程度のタイムラグがあると思われるので、差し迫った過疎化地域の活性化には間に合わない恐れもあり得ます。

高齢化地域を「限界集落」と考えず「高齢化しつつも活性化可能な地域活性化対策」を考えるべきではないかと思われまます。

「こども家庭庁」は、できましたが「高齢者庁」まで作る必要はないかもしれませんが、「過疎化問題」と真摯に向き合うには高齢者問題は最重要課題の一つと思われまます。

### 【現状の主たる問題】

- 1・地域内モビリティーの確保
- 2・人手不足対策

## 【今回のデジ田甲子園では】

上記問題解決に役立つ「事例」を重点的に取り上げる、  
また審査に当たっては総合点主義ではなく「高齢者の戦力化」「AI や最新テクノロジーを活用した事例」「新しいアイデア」「きらりと光る政策」の発掘・発見に重点を置くことをお願いしたい。

### 1・地域内モビリティの確保

#### 【問題の背景】

地域の過疎化による利用客の減少や人手不足によるバス等の公共交通機関の減便や撤退、高齢化による「免許証返上者」の増加により、高齢者を中心に移動困難者がますます増加しつつある。これは「買い物難民の増加」などの生活面だけの問題ではなく「人との交流の減少による孤独化」にもつながる恐れもある重要な問題と考えられます。

#### 【考えられる解決策】

##### 限定運転免許制度の制定

例えば、速度制限30キロ以内の「農道」「生活道路」限定の免許証を制定し地域内での移動を容易にすることで高齢者の移動手段の確保の一助とする。

また、高齢者の場合、直ちに、自動運転レベル4を実現することが難しくても、予期せざる心身の不調により安全運転が困難となった場合に限り自動緊急対応機能が作動して重大事故防止を可能ならしめるシステムの開発も考えるべきと思われます。

### 2・「人手不足」対策としての高齢者のIT教育

## 【問題の背景】

高齢化が進みつつある過疎地では、特に人手不足が深刻です。

対応策としては、高齢者に「行政・社会のデジタル化に対する理解と協力」を求め、「セルフレジ」「オンラインバンキング」「ネットショッピング」「オンライン診療」などを積極的に利用してもらうことが前提。そのためには高齢者の意識改革と、「高齢者の IT リテラシー向上教育」を多面的に一層強力に推進していくことが重要と思われれます。

現在、高齢者の「IT リテラシー向上」のためのスマホ講習については総務省におかれて「携帯キャリア委託型」や「地域連携型」に加え「講師派遣支援」等を展開していただいております、受講者の理解度も良好と伺っています。

今後の課題は

- ・「スマホの操作手順に限らないデジタル全般についてのリテラシーの向上。
- ・デジタルライフの「定着化・日常化」と取り組むことが肝要と思われれます。

## 【考えられる解決策】

### ① 全国民に対する広報活動

前項実現のためには

- ・まずは、活動の対象を「関係者」から「全国民」に拡大すること。  
その上で、政府によるインパクトのある広報活動により行政や社会の最新のテクノロジーを使った電子化、効率化についての理解を得ること。
- ・各自が「自分自身のデジタル化と更なるレベルアップ」を推進すること。
- ・さらに、家族や近隣の人々のデジタル化を手伝うこと。

等の地道な推進が必要と思われれます。

## ② 高齢者をもっと知ること

例えば、80代後半の高齢者の大多数が「難聴」であること。

近い将来、人口の一角が難聴者になる可能性があるという情報もあります。

(交通安全などについても、その前提に立ってお考えいただきたい)

また、現在のデジタル社会は「若者による、若者のためのもの」であり、それをそのまま高齢者に押し付けようとする傾向があります。

「高齢者の心身について」もっと知ったうえで「高齢者向けの IT リテラシー向上のカリキュラム」をご検討いただきたいです。

現状、高齢者は「忘れやすい」「同じ質問を何度もする」と言われていますが、これにはデジタルライフに必要な知識が「理解はできるが日常生活に定着していない」ということも原因の一つとしてあると思います。

一つの例として、地域内に「高齢者が楽しく学べるオンライン交流サイト」を作ることなどが考えられます。これは移動手段の限られている高齢者の孤独解消にも役立つと思います。

なお、高齢者がデジタル機器の複雑な「操作手順」など学習しなくても、必要な情報を得られるように例えば「ChatGPT」のような AI ツールの活用を初期の段階から知ってもらうことも今後の課題としてご検討いただきたいです。

## 3・その他

都市部の若年層、学生などのなかには「デジタル田園都市国家構想」「デジ田甲子園」に対する関心が薄い、あるいはまったく知らない人が多い。

都市部と他の地域との交流による相互理解の機会を作ることも大切と思われます。

例えば「食の生産者」と「食の消費者」の交流の場を作り「食の消費者」である都会のひとが実際に「食の生産の場」を訪れて「生産の場」を体験しつつ問題解決についてともに考える機会を作る等です。

また、今回は無理かと思いますが、今後の「デジ田」にはA I活用の提言など中心に都会のひともエントリーできる部門を作ることもご検討いただきたいと思います。

以 上